

ユニオンネットワーク総会

8月22日、エルおおさかにて「おおさかユニオンネットワーク第36回定期総会」が開催されました。

ユニオンネットワークには大阪の20余りの労働組合が結集しています。運動としては、争議・闘争組合支援連帯として定例会議にて問題共有し、悪質な企業に対しては春と秋の総行動や、増加傾向にある医療・介護職場の争議解決に向けた取り組みもおこなっています。また、日本資本による韓国での労働者に対する不当労働行為や弾圧にも連帯し、韓国との労組連盟にて大阪府労働委員会に救済申し立てをおこない、この度、証

人尋問が実施されることとなりました。

そして労基法改悪の動きに対しては、いち早く行動展開できるように決起集会や総会時に大阪労働者弁護団の弁護士を招き、学習をかさねています。



さらに近年、大阪府が設立し、指定管理者制度によって運営されているエルおおさかが、本来の労働者・労働組合のための施設とい

う趣旨に反して、労働組合にとって使いにくい制度へ徐々に改悪しています。そのことに対し大阪府および共同事業体エル・プロジェクトに申し入れをおこなっています。また、労働者救済機関としての大阪府労働委員会の決定した命令が使用者が全く守らない事例が増えていることについても、運営委員会での協議がおこなわれ、大阪労働者弁護団と連携する形で申し入れ行動を予定しています。これら未解決の争議や労働問題など粘り強く問題解決するまで継続していくことが今総会にて確認されました。支部からは役員2名、ユニオンおおさかから役員1名が新任されました。総会には、青年部3名含め12名が参加しました。

(書記長 吉馴 真一)

労組と市民と野党の共闘が必要

8月30日(土)、しないさせない戦争協力関西ネットワークの定期総会に、執行部5名、分会5名、神戸支部2名が参加し、総勢100名を超える仲間が結集しました。

最初に箕面市議を勤める増田共同代表のあいさつがあり、活動報告および決算報告、提案とスムーズな進行のもと無事に総会は終了しました。

総会后、憲法学者の清水雅彦教授の講演がはじまり、日米安保体

制から日米地位協定をわかりやすく説明していました。



現在、日米地位協定では、米軍は日本の空域を自由に飛行することができ、米軍機が墜落した場合や、米兵が日本で公務中に事件を起こしても日本が関与することが

できず、これらの事故や事件の賠償についても日本政府が25%負担しなければならないといった不平等すぎる協定であると話されていました。

最後に、平和運動の大切さと、市民と野党の共闘ではなく、労組と市民と野党の共闘が必要だと熱弁されていました。講演を聞き、日本はいまだに植民地支配にあるのではないかと感じ、憲法を学習し、行使していく大切さや共闘と団結の大切さを若い世代に継承できるように頑張っていきたいと思いました。

(執行部 岡田 大)



被爆80周年原水禁

8月4日～6日に開催された「被爆80周年原水爆禁止世界大会・広島大会」に参加しました。

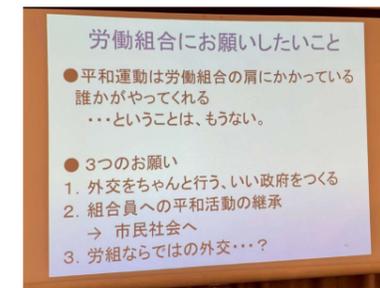
折鶴平和行進では、境港支部の仲間4名が駆けつけてくれ、共に「核兵器をなくそう!」など、シュプレヒコールをあげながら、核廃絶と平和を訴えました。

開会総会には全国各地から約2,200人が参加しました。主催者挨拶では、昨年の日本被団協のノーベル平和賞受賞は、長年の被爆を語る努力が、核使用抑止の大きな力となったことが評価され、被爆の実相、被爆者の証言こそが唯一無二の核抑止の力です。「核と人類は共存できない」の理念のもと、被爆の実相に向き合い、率直な討論をと呼びかけがありました。

日本被団協代表委員の箕牧智之さんは、自身の入市被爆体験と被爆者として核廃絶、戦争のない世界の実現に向けて活動してきた思いを語りました。閉会の挨拶では、核廃絶の強い意志と勇気を持ち一人ひとりが当事者として、主権者として、行動の第一歩を踏み出すことを参加者に呼び掛けて集会を終えました。

2日目の分科会は、「平和と核軍縮II-日本国内の情勢」ひろばは「話芸で学ぶ平和と核」に参加しました。

「憲法をめぐる情勢、参政党の改憲案」(講師:清水雅彦)では、これまでの憲法をめぐる情勢と、参政党の改憲案から問題点を考えながら、改めて憲法について考えました。



「日本の軍備拡張について」(講師:猿田佐世)では、参加者同士にディスカッションさせながら、軍拡して戦争をする国に進むのではなく外交の重要性を説きました。また、労働組合にお願いしたいこととして、平和運動は労働組合の肩にかかっている。外交をちゃんとおこなう政府を作るように選挙活動をし、組合員への平和運動の継承や外国の労働者との国際交流をお願いされて終わりました。



最終日は、国際シンポジウムとまとめ集会に参加しました。まとめ集会には約550人が参

加し、「広島大会まとめ」と「ヒロシマ・アピール」が提案・採択され、被爆の実相の継承を基軸に「核も戦争もない平和な社会」を実現するために頑張りあうことを確認して集会を終えました。



アメリカのトランプ大統領は、イランの核施設への攻撃を正当化するために広島・長崎を引き合いに出しました。到底許されることではありませんが、日本政府は抗議の意思を示していません。

石破首相は広島での平和式典で、「核兵器のない世界」の実現に向けて全力を尽くすと言いましたが、核兵器禁止条約に批准しません。核兵器不拡散条約では核兵器はなくなりません。

また、被爆者の平均年齢が、86歳を超えるなど高齢化が進んでいます。核兵器・原発を未来へ残さないためにも運動を継承していかなければならないと思います。

(書記次長 関谷 和人)

2025 岩国行動 スタート

8月1日、エル・おおさかにて [全国で進む戦争準備と岩国][全国の連携と課題]2025岩国行動スタート集会に執行部4名で参加しました。

2007年より、岩国労働者反戦交流集会は岩国基地拡張に反対し、地域住民と連帯や労働者の反戦・反基地闘争の交流集会をしており、その前段として岩国行動スタート集会が開催されています。

開会あいさつ、実行委員会結成報告の後「戦争を止めるためにならう！岩国と呉の現場から」を、新田秀樹さん（ピースリンク 広島・呉・岩国 世話人）から講演を受けました。西日本から琉球弧にかけて軍備強化、軍事訓練、多国間軍事演習の強度化、軍事費



が飛躍的に増大し、戦争準備が加速度的に進められています。岩国・呉をはじめ関西にも配備されている防衛施設などの現状や、2023年に閉鎖された日本製鉄瀬戸内製鉄所呉地区についても詳しく現状報告されていました。そして岩国基地の役割は飛躍的に強化され、活発な訓練による周辺住民の被害も増加しています。

全国各地の弾薬庫拡大や、沖縄・南西諸島での自衛隊基地設置・強化は一層すすめられており、特定利用空港・港湾という形で、既存の空港や港湾も動員されようとしています。反戦・反基地の声をあげてたたかきましょう！

今年の岩国行動は12月13・14日を予定

※拡がる軍事施設参考資料

◆◆中国四国地方 主要防衛施設配置状況 (中国四国防衛局HP)

<https://www.mod.go.jp/rdb/chushi/about/facility/images/haichizu.png>

◆◆近畿周辺 軍事・核施設マップ (しないさせない戦争協力関西ネットワーク)

https://no-war.sakura.ne.jp/network/totikiseimapVer1.2-1_site.pdf

(執行部 宮脇)



トラック懇話会第14回総会

トラックの将来を考える懇話会・近畿 第14回定期総会を8月2日、道頓堀ホテルにて参加者72名で開催しました。

来賓者として辻元清美（立憲民主党所属・参議院議員）、尾辻かな子（立憲民主党所属・衆議院議員）、岩井勝彦（大阪府トラック協会専務理事）からあいさつをして頂き、「適正な運賃の収受によるの改善をはじめ課題を解消すべく連携しながら、しっかりと取り

組んで参ります」と述べました。

南海代表からは「中小企業は厳しい状況に於かれています。議員と協力と行政への要請を強化し、適正な運賃収受を早期に実現したい」とあいさつされました。

陣内事務局長から方針提案として、「懇話会は適正な運賃収受に向けて、信念を曲げずに、14年間訴え続けてきました。少しかもわかりませんが適正原価の告示制度が創設され義務化することにな



りました。

来期も行政交渉やセミナーの取り組み方をマンネリ化せず、会員企業や労組が意見交換することで懇話会の継続と、利潤を含む運賃収受に向けて努力していきます」と報告しました。総会后、懇親会では意見交換や交流を深めることができました。 (陣内)

8・15 訪韓レポート

国民が国を変えるのだ!

8月14日～16日の3日間にかけて「光復80年 平和・主権・歴史正義 実現 汎市民大会」参加のため訪韓してきました。

光復80周年ということで昨年から準備をし、日韓平和連帯として総勢47名、韓統連として50名近い団をそれぞれ形成し、行動を共にしました。



◇懇親会場が一体となる

1日目の夕刻、現地の議員や市民団体の方々との懇親会があり、韓国国内の情勢や集会に臨む決意などを述べられました。日韓平和連帯からは西山代表が決意表明をし、時間が許されるまで各々の思いや決意を述べ、また歌で想いを伝え、懇親会場が一体となり大きな団結となりました。

◇2日目

2日目の日中、「戦争と女性の人権博物館・平和の少女像」と「チョン・テイル記念館と記念像」を2班に分かれて参観しました。

夕刻、集会会場わきに設置された多くのテントで「統一ピビンバ」が振舞われました。19時より集会が始まり、何百メートルもある道路を多くの人で埋め尽くし、各団体からのアピールによって参加者は拍手やシュプレヒコールを上げ、盛り上がりは最高潮に達しました。



となりました。

◇2日間の行動で感じたこと

国家権力に対して立ち向かい「国民が国を変えるのだ!」という気持ちを、韓国国民は一人ひとりが強く持っていることです。

日本国民も多くの方がそのような気持ちで今の権力にまみれた社会に立ち向かい、私たちの後を生きる世代のため、安心して暮らせる社会を構築していかなければなりません。

(副執行委員長 横山 貴安基)

◇21時からデモ出発

21時よりデモ行進が始まり、届け出をしているにもかかわらず現地警察からデモ行進の妨害が繰り返され、デモ隊は負けじと間を潜り抜け、デモ貫徹に向けて躍起

◇参加青年部感想◇

光復80年の節目に参加し、歴史の重みと平和の尊さを改めて感じました。過去を忘れず、未来へつなぐ責任を心に刻みました。

戦争と女性の人権博物館を訪れ、被害者の苦しみと尊厳を深く学びました。平和と人権を守る大切さを強く実感しました。まだまだ勉強不足ですが色々と学んでいきたいです。

大阪支部大正埠頭分会 平澤 悠磨

光復80周年のデモにも参加させてもらいました。他にもチョンテイル博物館に行ったり、色々な体験をさせてもらいました。どれも初めての体験で、すごく刺激をもらえたいすごくいい経験になりました。

特にデモは見たこともない人数の人が集まり、まるでパレードかのように若者が多く、デモ行進を楽しんでいました。今回の経験を活かし、これからも頑張りたいと思いました。

大阪支部大商分会 佐久原 秀大